

高齢者こころのケアサポーター養成事業【高知県】

(実施主体) 高知県	(基金事業メニュー) 人材養成事業
(実施期間) 平成 22 年度～	(実績額) 平成 23 年度 1,002 千円

【事業の背景・必要性・目的】

高知県における自殺者数は平成 10 年以降 200 人を超えて推移し、平成 16 年には最も多い 256 人の方が自殺により亡くなった。平成 22 年は、197 人と 13 年振りに 200 人を下回ったが、自殺死亡率（人口 10 万あたりの自殺者数）は依然として全国でも高い水準にある。

一方、高知県の高齢化率は 28.8%（平成 22 年国勢調査）となっており、全国平均の 23.0%を大きく上回り、全国に先駆けて高齢化が進んでいる。

そうした中、65 歳以上の高齢者の自殺者が、平成 21 年には全体の 33%、22 年には 31%を占め、高齢者の自殺の原因・動機別（県警データ）では約 7 割が健康問題となっており、その内訳は、うつ病や身体の病気によるものが多い。

高齢者の場合、うつ病の症状が認知症と共通していることも多いため気づかれにくく、悪化させてしまうおそれもあるため、うつ病についての正しい知識と傾聴の技法を学んだ「こころのケアサポーター」を養成し、「こころのケアサポーター」が高齢者及び在宅介護者の相談に適切に対応することで、こころの健康づくりと、うつ病の早期発見につなげ、一層の自殺対策の推進を図ることを目的とする。

【事業の内容】

精神科医等うつ病に関する専門家等で構成した研修企画委員会を設置し、カリキュラム等研修内容について企画・立案を行った。

養成研修は、高齢者に日常的に接しているケアマネジャーやホームヘルパー等を対象とし、うつ病や高齢者のメンタルヘルス等について正しい知識の修得及び傾聴の技法を学ぶ内容とした。

平成 22 年度から、毎年 6 時間×2 日間の研修を 2 回実施。傾聴の技法については、演習形式で実施するため 1 回の定員を 50 名とし、複数名の産業カウンセラーを講師としている。

「こころのケアサポーター」が研修で得た知識や傾聴の技術を活かして、日常業務の中で高齢者や介護者の相談に適切に対応できるようにするとともに、うつ病の早期発見につなげることを目指している。

【事業実施に当たっての運営体制等】

事業実施主体は高知県とする。ただし、研修企画委員会の設置、高齢者こころのケアサポーター養成研修事業等を高知県社会福祉協議会への委託により実施。

【事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点】

平成 22 年度は 80 名、平成 23 年度は 49 名が修了。修了者には、修了証書と「こころのケアサポーター」ピンバッジを交付し、ピンバッジの装着により高齢者との話題のきっかけにさせていただくよう伝えている。

精神科医によるうつ病等についての講義では、自殺の状況や自殺対策についても取

り上げ、「こころのケアサポーター」としての日常の活動が自殺予防につながることを認識できるようにする。

また、平成 23 年度から本人の了解を得た修了者について名簿を作成し、市町村や保健所等関係機関に配布し、各地域での取組や連携のために活用できるようにした。

平成 22 年度、23 年度とも、年 2 回の開催を、それぞれ県中央部と県西部で実施した。

修了者が減少傾向にあり、平成 24 年度は、開催地の変更や対象者の拡大等工夫を要すると考えている。

【「こころのケアサポーター」ピンバッジ】



(問合せ先) 高知県地域福祉部障害保健福祉課

TEL: 088-823-9669

E-mail: 060301@ken.pref.kochi.lg.jp

URL: <http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060301/>